



～わくわく農場体験～

能代西高校の生徒達でつくる『NPO法人アグリファームのしろ』が10月28日、同校で「わくわく農場体験」を開催しました。「アグリファームのしろ」は、地域住民との交流や地域貢献活動などに柔軟に展開することを目的に平成24年8月に設立され、今回の農場体験は5回目の開催となります。

この日は地域住民ら15人が参加しました。開会式では、NPO法人代表であるビジネス系列の西方啓吾さんが「今年で5回目の開催となります。農を楽しみ、農に親しんでいってください」とあいさつ。その後、西高農場へ移り、シクラメンなどの花を栽培している温室や牛やポニーを飼育している畜舎の紹介のあと、ねぎの収穫体験が始まりました。今回初めて参加した方は「思ったよりねぎを抜くのは大変な作業だった。生徒達と話しながら作業ができたので、楽しかったです」と感想を話してくれました。

その後、“西高産”のあきたこまちやねぎ、比内地鶏などを使用しただまこ鍋づくりも行われ、参加した地域住民は能代西高校ならではのイベントを楽しんでいました。



～第27回全国産業教育フェア秋田大会～



農業や工業、商業など専門学科で学ぶ生徒が学習成果を発表する「全国産業教育フェア秋田大会」が10月21日、22日の2日間に渡って秋田市で開催され、市内8会場は多くの来場者で賑わいました。

秋田県では初開催となるこの大会には、県内42校を含む全国395校が参加しました。このうち、県立体育館では高校生が生産した農産物や加工品を展示する「全国高校生種苗交換会」が開かれたほか体験コーナーも設けられ、能代西高校の生徒はそば打ちを来場者に指導するなどしました。また、屋外では動物ふれあいコーナーが人気で、乳搾り体験やジャンボウサギふれあい体験などがあり、大人から子どもまで多くの来場者が楽しみました。

～秋田酒こまちの収穫～



能代西高で4年前から始まった酒米作り。初めは30aだった面積も今は60aに増やして栽培を行っています。能代西高で栽培しているのは「秋田酒こまち」という品種で、様々な日本酒に使用されています。この品種はうるち米と比べて草丈が長くなるので、倒伏軽減剤等を使用して大事に育てられました。

10月25日には刈り取りを行い、作物栽培専攻の生徒が圃場の隅を刈り、さらにはコンバインを運転して刈り取りをして収穫作業に励みました。収穫された酒米は、喜久水酒造に出荷され、能代西高校のオリジナル日本酒「西の恵豊」として販売されます。

